



創立151年

わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和7年 2月号

児童数384名 文責 澤村幸夫



創立150周年記念で植樹された桜が「花芽」をつけています。私たちは開花の時期に桜を見に出かける習慣がありますが、樹木は私たちの知らない間に着々と命の鼓動をつないでいます。桜のつぼみのもとである「花芽」は夏までにでき、秋には一旦「休眠」します。この「花芽」が眠りから

覚め、開花に向けて本格的に動き出すには、冬の寒さにさらさなければなりません。冬の低温が刺激となります。そして、眠りから覚めた「花芽」は、早春の気温上昇とともに、さらに膨らみ、やがて開花します。春のわずかなひとときに美しく開花するために、桜は前年の夏から準備をし、「厳しい冬」があって「春の開花」を迎えることができます。桜はあえて寒さを受け入れて開花の力に変えているのですね。

私たち人間の成長も冬の時期があることで春が来ます。私たちは、大きな成果が出た時に注目し、称賛する傾向がありますが、目立たない時に目立たない所で少し頑張っている姿に目を向ける必要があります。褒めるのではなく認める、共に伴走する、そんな営みが大事です。少ししゃがむ時期があるからこそ、高くジャンプできるのだと思います。目立たなくても、地道に努力を積み重ねることで、大きな力となるのですね。



教育のありようが、転換期にきています。子どもたちにつけたい本当の力とは、「自ら課題を見つけ、周囲と協働しながら、課題解決に向けて動き出す力」です。これが、子どもたちが将来に向けてたくましく、幸せに生きていく力となります。今までは、より多くの知識や技能を身に付けたり、与えられた課題を解決したり、指示されたことを真面目

にやり遂げたりすることが必要とされてきました。

「VUCA」(ブーカ)の時代と言われて数年がたちます。変化が激しく予測困難なこれからの時代を端的に示すキーワードです。V=Volatility:不安定、U=Uncertainty:不確実、C=Complexity:複雑性、A=Ambiguity:曖昧性の頭文字をとった造語です。VUCA時代を子どもたちが生き抜くために求められる力は実にさまざまです。変化に対応する柔軟性や適応力、新たなアイデアを生み出す創造力や問題解決力、周囲と協働するコミュニケーション力、デジタルやAIを使いこなすスキルなどです。

そんな中、県の事業である「子ども県議会」に子ども議員として自ら応募し、約1年間活動している児童が本校にいます。4年生の岡野綸さんです。県内小4から中3までの40名の子ども議員に選ばれ、3回

の地域体験活動と5回の学習会に参加し、滋賀の未来のことを考えました。活動の集大成として、12月25日には滋賀県議会議場で、滋賀県をよりよくするための質問や子ども宣言の発表を行いました。このチャレンジ精神こそ、VUCA 時代に求められている「自ら課題を見つけ、周囲と協働しながら課題解決に向けて動き出す力」だと思います。岡野さんを含む8名のチームが提案した内容をご紹介します。

滋賀の知られざる魅力を伝える二次元コード

私たちは滋賀県の魅力をたくさんの人に知ってもらい観光客が増え、地域活性化につなげたいと思っています。私たちの住んでいる滋賀県は全国的にみても魅力度ランキングが低く、宿泊客も周りの府県と比べて少ないです。実際に私たちも、滋賀県の観光名所などがあまりテレビで取り上げられていないと感じることがありました。また、実際に子ども議員やサポーターにアンケートをとったところ、たくさんの人が観光名所の「河内の風穴」や「永原御殿」の存在を知らないと答えました。そこで、私たちはたくさんの観光客が訪れる彦根城やラコリーナ、2025年に滋賀県で開催される国スポ・障スポ大会の会場などに、「滋賀の知られざる魅力を伝える二次元コード」として二次元コード付きのポスターを設置することを提案します。

このポスターは滋賀県を湖西、湖東、湖南、湖北の四つの地域に分け、それぞれのエリアに1つずつ二次元コードがついています。この二次元コードを読み取ると、そのエリアの観光名所の紹介のほか、クイズや住所、さらに周辺のお店が書かれています。

どんなことを載せるか、いくつか紹介します。まず、「三井寺の妖怪伝説」です。【中略】

他にも、湖西、湖東、湖南、湖北の四つの地域をすべて楽しめるような取り組みとして、「滋賀県スタンプラリー」も楽しめます。滋賀県には昔、千を超える城がありました。【中略】

このように、二次元コードを読み取った先には、滋賀の知られざる魅力を伝える内容がたくさんあります。このポスターをたくさんの人が訪れる所や2025年に開催される国スポ・障スポ大会でも飾り、出場する選手やお客さんにも知ってもらいたいです。たくさんの人が滋賀の知られざる観光名所に行ってくれる上に、知名度が上がり、観光客が増え、地域活性化にもつながると思うのですがいかがでしょうか。



1月23日(木)、文化庁の学校巡回公演で「セントラル愛知交響楽団」の皆様によるオーケストラ公演を実施することができました。

約70名の楽団の皆様が、本物のオーケストラとして美しい名曲を奏でられ、楽器紹介や



指揮者体験、共演や和邇小学校の校歌をオーケストラの演奏で斉唱することができました。美しい音色や迫力のある演奏に時を忘れ、夢中になることができました。

公演の様子ほんの一部を動画にまとめましたので、右のQRコードからご覧ください。

巡回公演ダイジェスト

紙面配布のみ表示



期間限定 2/3~2/28

シリーズ 「未来への扉」 第12弾 「ネガティブ・ケイパビリティ」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのか、共に考えていきたいと思ひます。第12弾は「ネガティブ・ケイパビリティ」についてです。



学校のヤエヤマギンポ
本文との関連はありません。

先に述べた VUCA (ブーカ) の時代を、たくましく生き抜いていくために必要な力にはさまざまなものがありますが、こうしたら、確実にその力が身に付くなどという特効薬はありません。しかし、個人的には、多くの精神科医が提唱する「ネガティブ・ケイパビリティ」が、これからの時代に必要になってくると思ひます。

ネガティブ・ケイパビリティとは、「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に身を置く能力」を言ひます。どうにもならない状況でも、急いで答えを出さず、自分なりの答えが現れてくるのを待つ力です。

ネガティブ・ケイパビリティの逆は「ポジティブ・ケイパビリティ」です。ポジティブ・ケイパビリティとは、「できるだけ早く答えを出して、不確かさや不思議さ、疑いの気持ちから抜け出す力」「問題に対してすぐに答えを出し、わからないことをわかるに置きかえていく力」を指します。物事には答えがあり、それがスピーディに分かるのが優れた人と私たちは評価しがちです。

学校教育でも、もしかするとポジティブ・ケイパビリティに重点を置いてきたのかもしれない。

世の中、 $1+1=2$ のように単純に理解できるばかりではありません。人間関係は特にそうです。人の心は複雑で奥深いものです。人が同僚を、親が子を「分かっている」と考えていても、その「分かっている」ことは全体の一部にしか過ぎません。わかったつもりになるのは危険です。双方のさらなる探求の機会を奪ってしまうからです。答えや解決策を急がず、相手の歩調を合わせながら、ただゆっくり時間を過ごすことが大切だと思ひます。



ネガティブ・ケイパビリティを育む土壌となるのは、世界は「素晴らしいものだ」とまではいなくても「捨てたものではない」という認識、そしてその世界と自分がつながっているという感覚です。

この認識や感覚を持つ方法は1つではありません。音楽(例えばオーケストラやジャズ・邦楽を聴く)や美術(例えば美術館に行く・博物館に行く)などに触れてその美の世界と共鳴する。スポーツや集団活動に取り組んで(例えば競技に専念する・習い事に夢中になる)人との絆の大切さを体感する。植物や昆虫などの自然や宇宙の仕組みや神秘を知って感動する。他にも、まだまだたくさんありそうです。



学校のミッキーマウスプラティ
本文との関連はありません。